大学共同利用機関法人
人間文化研究機構

総合地球環境学研究所

Research Institute for Humanity and Nature 2009

総合地球環境学研究所
所長　立本 成文

ごあいさつ

いわゆる地球環境問題の根源は人間の文化にあります。この視点から、人間と自然との相互作用のあり方を根本から捉え直そうとしているのが地球研です。皮肉にも人間生活の豊かさが増すにつれて深刻になってきている環境問題を、地球的視野で総合的に研究し、未来可能性のある社会を構築するのに寄与することを目的としています。研究プロジェクト方式を特色とする地球研は、常時14プロジェクトの本研究（FR）に加えて準備段階のプレリサーチや予備研究、インキュベーション研究が多々あります。個々のプロジェクトの成果を元に、研究所の目的を踏まえた、地球環境学の発信に努めています。

副所長(企画調整担当)　秋道　智彌
副所長（研究担当）　佐藤洋一郎

2009年4月

［特 色］

1 **総合性**　自然科学、人文社会科学、工学、農学、医学などの異なる分野が一堂に会した総合的なアプローチをします。

2 **国際性**　国外の研究機関とも強力な連携を図り、招へい外国人研究員を構成員に加えた研究体制をとっていきます。

3 **中枢性**　全国の関連研究機関や研究者の協力を得ながら、専任教員が中心となって研究プロジェクトを企画・実施しています。

4 **流動性**　「研究プロジェクト方式」に対応して、任期制を採用して流動性の高い研究組織にしています。

2009（平成21）年度に進行する研究プロジェクト等（2009年4月1日現在）

地球研の研究プロジェクトは「インキュベーション研究」（IS）から始まり、所内の審査を経て「予備研究」（FS）になります。その後、予備研究の結果が評価を受け、研究プロジェクト評価委員会によって適切と認められ、運営会議にて正式に承認されれば、1年間の「プレリサーチ」（PR）を経て、5年程度の「本研究」（FR）が行われます。また、終了プロジェクト（CR）についても、研究成果の公表や社会的な貢献など地球研としての総括的な事後評価を受けることになっています。

循環領域プログラム　（プログラム主幹：谷口真人）

本研究5年目　北東アジアの人間活動が北太平洋の生物生産に与える影響評価（プロジェクトリーダー：白岩孝行）
本研究4年目　都市の地下環境に残る人間活動の影響（プロジェクトリーダー：谷口真人）
本研究3年目　病原生物と人間の相互作用環（プロジェクトリーダー：川端善一郎）
本研究1年目　温暖化するシベリアの自然と人―水環境をはじめとする陸域生態系変化への社会の適応―（プロジェクトリーダー：井上　元）

多様性領域プログラム　（プログラム主幹：湯本貴和）

本研究4年目　日本列島における人間-自然相互関係の歴史的・文化的検討（プロジェクトリーダー：湯本貴和）
本研究2年目　人の生老病死と高所環境―「高地文明」における医学生理・生態・文化的適応（プロジェクトリーダー：奥宮清人）
本研究2年目　人間活動下の生態系ネットワークの崩壊と再生（プロジェクトリーダー：山村則男）

資源領域プログラム　（プログラム主幹：渡邉紹裕）

本研究3年目　民族/国家の交錯と生業変化を軸とした環境史の解明―中央ユーラシア半乾燥域の変遷（プロジェクトリーダー：窪田順平）
本研究2年目　熱帯アジアの環境変化と感染症（プロジェクトリーダー：門司和彦）
本研究1年目　アラブ社会におけるなりわい生態系の研究―ポスト石油時代に向けて（プロジェクトリーダー：縄田浩志）

文明環境史領域プログラム　（プログラム主幹：佐藤洋一郎）

本研究4年目　農業が環境を破壊するとき―ユーラシア農耕史と環境（プロジェクトリーダー：佐藤洋一郎）
本研究3年目　環境変化とインダス文明（プロジェクトリーダー：長田俊樹）
本研究3年目　東アジア内海の新石器化と現代化：景観の形成史（プロジェクトリーダー：内山純蔵）

地球地域学領域プログラム　（プログラム主幹：阿部健一）

本研究3年目　社会・生態システムの脆弱性とレジリアンス（プロジェクトリーダー：梅津千恵子）

プレリサーチ　メガシティが地球環境に及ぼすインパクト：そのメカニズム解明と未来可能性に向けた都市圏モデルの提案（プロジェクトリーダー：村松　伸）
予 備 研 究　中央アジアにおける遊牧民と農民の環境史学（FS責任者：宇野隆夫）
予 備 研 究　急激に変化する中国・長江流域の人間活動と自然の相互作用（FS責任者：田中広樹）
予 備 研 究　東南アジア沿岸域における生物資源の持続的利用に向けた取り組み（FS責任者：石川智士）
予 備 研 究　開発と環境、人口流動―変化への生活適応と環境影響―（FS責任者：須田一弘）
予 備 研 究　熱帯アジアにおける新興作物の急激な拡大による農業生態系の遺伝子汚染（FS責任者：佐藤雅志）

研究推進戦略センター

地球環境学に関する統合的研究戦略策定、情報の収集・分析、成果の発信を進めるとともにこれらに関する研究を行っています。
〔研究推進戦略センター長＝秋道智彌、 戦略策定部門長＝渡邉紹裕、 研究推進部門長＝中野孝教、 成果公開・広報部門長＝阿部健一〕

施　設

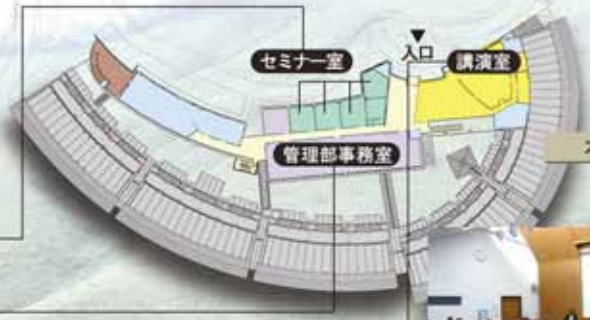
研究者等がおのずと絶え間なく議論を繰り返し、互いに切磋琢磨できるような環境として、「ワンフロア」「大部屋」「回遊型動線」を特徴とする施設となっています。複数の研究プロジェクト等が、大空間に雑居するような雰囲気の中で、いつでも、そして誰とでも会話が始められるように工夫されています。いわば、「知的回遊」のための回廊の組み合わせです。

管理部事務室

ワンフロアに所長室、管理部長室のほか、事務室（総務課、財務課、研究協力課）が集中配備されています。

セミナー室

可動式間仕切りで少人数のセミナーから最大150名規模のセミナーが開催できます。



講演室

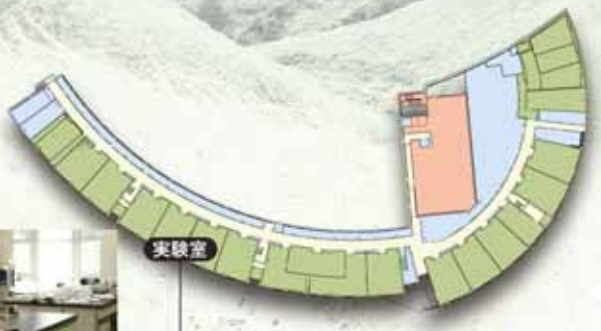
約120名収容できます。可動舞台、同時通訳ブースがあります。

図書室

図書（約16,000冊）、雑誌（約120タイトル）を収納しています。（平成21年３月末現在）

プロジェクト研究室ゾーン
研究推進戦略センター室

本館1階は各研究プロジェクトと研究推進戦略センターが入る大きなゾーンです。オープンスペースのため、自由に往来し議論することができます。



実験室

質量分析室、クリーンルーム、安定同位体分析室、DNA分析室、化学分析室、多目的実験室、冷凍室などがあります。

地球研ハウス

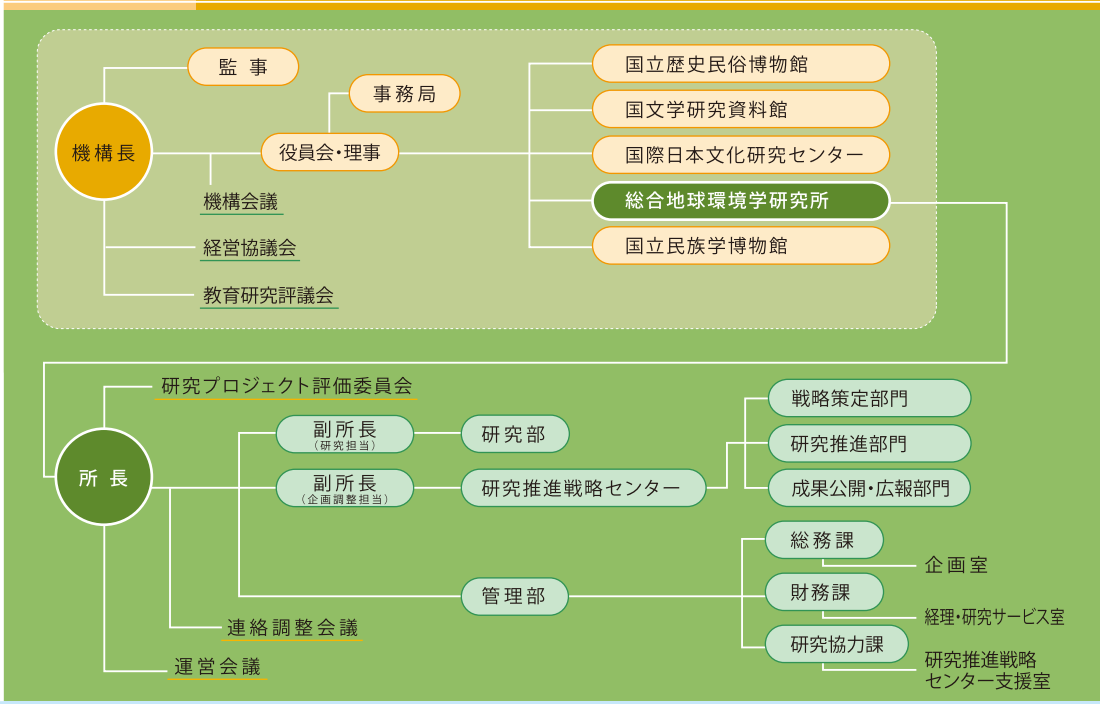
国内外の研究者の短期宿泊、長期滞在が可能です。ゲストと地球研スタッフの交流の場が設けられています。

主なイベント

- **第8回地球研フォーラム**
  「エコヘルス―健康によい環境を考える―(仮題)」
  2009(平成21)年7月5日(日)
  於：国立京都国際会館
- **地球研市民セミナー** 年8回程度開催
- **第4回地球研国際シンポジウム**
  「境界のジレンマ―新しい流域の概念」
  2009(平成21)年10月20日(火)-22日(木)開催予定
  於：地球研講演室

［組織図］

大学共同利用機関法人　人間文化研究機構　　2009年4月1日現在



総合地球環境学研究所

■交通案内

・JR京都駅より
　地下鉄烏丸線で「国際会館」下車、京都バス40系統「京都産業大学ゆき」、　または50系統「市原ゆき」に乗車し、「地球研前」下車すぐ。

・京阪沿線より
　「出町柳」で叡山電鉄鞍馬線に乗換え、「二軒茶屋」下車、徒歩10分。

〒603-8047　京都市北区上賀茂本山457番地4
TEL 075-707-2100(代表)　FAX 075-707-2106
ホームページ　http://www.chikyu.ac.jp